「東京都スポーツ推進委員広域地区別研修会（８ブロック）」

川口　弘一（富士見丘小地区・８期目）

広域地区別研修会（８ブロック）が、７月23日（土）午後１時20分から約２時間、配信会場である昭島市公民館小ホールで開会式が行われ、Ｗｅｂｅｘによるオンライン開催を含めて約60人が参加した。

長谷川恵二副会長が司会を務め、和田幸子会長、昭島市教育委員会の倉片久美子生涯学習部長、東京都のスポーツ推進委員協議会の新島二三彦会長が挨拶を行った。

「パラスポーツの啓発から共生社会の実現に向けて」の講演が行われ、第一部では、東京都障害者スポーツ指導者協議会の植田敏郎会長が講師を務めた。

講演の内容は①障害（者）の理解（種類、程度、傾向）、②パラスポーツとは何か（パラスポーツの発展、意義、スポーツ界に対して、一般社会に対して）、③パラスポーツの理念、④スポーツ推進委員に求められることであった。

障害者の理解では、障害者は日常的に何らかのハンディがある。内容は身体、知的、精神に分かれており、それぞれ障害の重さにより数字が小さいほど障害が重い。したがって、スポーツ指導においても、数字が小さいほど障害が重い方の相手をすると認識する。

また、各種障害者手帳の所有者は、身体、精神、知的の順に多く、人口の約7.4％と増加傾向にあり、施設入所よりも、在宅や通所が増加傾向にある。

パラスポーツとは、昨年度に障害者スポーツからパラスポーツと名称変更を行い、障害者が主体的にスポーツを楽しむことを目的としている。

このほか、パラスポーツの理念は、健常者・障害者に関係なく交流することが大切であるとのことである。

第２部では、東京都障害者スポーツ指導者協議会地域部の、ＮＰＯ法人障がい者スポーツクラブＨＩＭＡＷＡＲＩの栗原寿江さんが講師を務めた。

講演は①東京２０２０を目指していた当時の課題で、周囲の協力を得ることの難しさや指導者不足の悩み、設備的環境の問題②これからの課題は、障害者にハンディを付けるのではなく、「きちんと評価される場の提供の必要性」である。

続いて、施設のバリアフリー化などの改善、スポーツクラブの年会費や参加費について質疑応答があった。

植田会長が講評を行い、閉会式では次回開催市である国立市の森本敏行議長が挨拶し、牧義明副会長が閉会の言葉を述べた。

令和４年上期の主な活動

４月14日ボッチャ体験会（武蔵野小）
５月14日ボッチャ体験会
５月15日市民健康づくり歩け歩け運動
５月28日ボッチャ体験会
６月４日親子ふれあいスポーツデー
６月11日ボッチャ体験会
６月18日ボッチャ体験会
６月25日ボッチャ昭島カップ
７月23日広域地区別研修会
９月17日親子ふれあいスポーツデー（成隣小）

編集後記

台風が過ぎる毎に、空は秋色に…。食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋、皆さんはどの秋を楽しみますか。引き続きコロナウイルス感染予防しながら、思い思いの過ごし方でリフレッシュしてみてはいかがでしょうか！

編集委員＝小川・牧・廣光・川口・細井